

ダイヤモンド電機 小野社長に聞く



鳥取工場の再編について語る小野社長＝1日、大阪市淀川区

電子機器事業は完全撤退 希望退職者120人を鳥取で

表したが。150人のうち120人を鳥取工場で募る。30人が大阪本社。鳥取工場では正規で513人が働いている。29日に説明し、仲間の切ない表情と向かい合った。社長の力不足であり、申し訳ないと思う。希望退職者のサ

る中、積年の課題だった電子機器事業の高コスト体質が浮き彫りになった。電子機器事業は新潟県などの工場へ集約する。鳥取工場は、自動車点火コイルの生産ラインを残す。ダイヤモンド電機が点火コイルのシェア世界一になるためには必要だ」

2021年度の連結売上高目標として1千億円を掲げているが。

ダイヤモンド電機（大阪市淀川区）の小野有理社長は1日、鳥取市南栄町の鳥取工場において、エアコン向け電子部品生産の電子機器事業から完全撤退の方針を表明した。今後は自動車部品の点火コイル生産に集中する。「コロナ禍で大きな減収を約150人募ると先月26日公

が見込まれる中、積年の課題だった電子機器事業の高コスト体質が浮き彫りになった。電子機器事業は新潟県などの工場へ集約する。鳥取工場は、自動車点火コイルの生産ラインを残す。ダイヤモンド電機が点火コイルのシェア世界一になるためには必要だ」

「21年度の目標達成は厳しい。しかし、21年度以降、北米や欧州で点火コイル受注が回復する。グループの田淵電機（大阪市淀川区）が強みを持つパワーコンディショナー（電力変換装置）の需要も落ちていない。「車と家をものづくりでつなぐ」というビジョンで、1千億円の目標に挑戦していく」

（聞き手は深田巧）